

## 巻頭言

# 岡山県営食肉市場完成す

蔵 知 毅

岡山県が肉畜の流通機構の改善を目指して計画を進めていた、待望の県営食肉市場がこの程完成して、去る8月1日その落成開場の式を挙行したことは、洵に御同慶に堪えない次第である。

従来和牛の生産県として知られていた本県は、和牛の生産と生牛の販路拡張については力を入れて来たが、肉畜に対する奨励は、単に肥育の奨励のみであって、末端の処理については、殆んど手をつけていなかったのである。然しながら和牛の将来が役肉用牛より、肉用牛として価値が高く評価されるようになって来ると、消費流通の面での機構整備が必要になって来るし、和牛の改良を目指す以上は、肉の問題より逆上って研究しなければならないわけである。産肉能力検定を行うにしても、飼育の段階より、屠殺解体までを正確に把握してこそ初めてその信頼性が置けるのである。

又流通機構においても、生産者、家畜商、肉業者が一元になって全般的に相互に協力することによって、完全なものができるわけであるし、これに対して行政が強力にバックアップすることが必要になって来るのである。

この様な意味から県は県営の食肉市場を建設し、それにと畜場、冷蔵庫を附設して、公正明朗な取引

を計画したわけである。

幸い県民各位と、関係業者の御理解と御協力を得ることができ、又政府の強力な御支援を頂いて、幾多の難問題も一応解決して、今日その発足を見たことは、本県の肉畜の将来に、明るい見通しが出来たものと慶んでいる次第である。

幸い荷受機関も岡山市と畜協会、岡山県総合畜連、岡山県家畜商商業協同組合、岡山県経済連の4者が共同出資をもって、岡山県食肉荷受会社を設立し、卸売を実施することになり、御協力を得ることができたのである。

何はともあれ、と畜場と冷蔵庫を併設した県営の食肉市場は全国で初めてのケースでもあり、これが成功することは、将来の岡山県の肉畜振興はもとより、全国の畜産振興に役立つものであると自負しているのである。畜産農家、関係団体等の御協力をお願いする次第である。